

岐阜県教育委員会

【総人口】 1,933,019人 【主担当部局】 義務教育課 （公立幼稚園担当） 【関係部局】 子育て支援課 （保育所・認定こども園担当） 私学振興・青少年課 （私立幼稚園担当） 【自治体 関連URL】 https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/4604.html		幼稚園			保育所		幼保連携型認定こども園	
		国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立
	施設数	0	55	90	187	142	33	54
	園児数	0	2,467	13,697	13,534	14,155	1,997	6,529
		小学校			義務教育学校			合計
		国立	公立	私立	国立	公立	私立	
	施設数	0	349 うち分校 1	2	1	5	0	918
	児童・生徒数	0	95,969	526	935	1,871	0	151,680

事業実施地域・協力園・学校	A〔岐阜地区〕北方町	公立：義務教育学校 2 校、幼保連携型認定こども園 1 園、保育所 3 園	私立：幼稚園 1 園
	B〔西濃地区〕神戸町	公立：小学校 1 校、幼稚園・保育所併設園（幼児園） 1 園	
	C〔中濃地区〕可児市	公立：小学校 1 校、幼稚園 1 園、保育所 1 園	私立：幼稚園 1 園、保育所型認定こども園 1 園
	D〔東濃地区〕土岐市	公立：小学校 1 校、幼稚園 1 園、保育所 1 園	
	E〔飛騨地区〕飛騨市	公立：小学校 1 校	私立：保育所 1 園

架け橋期のカリキュラム開発会議	【会議委員人数】 59名	【開催数】 県カリキュラム開発会議WG 2 回、全体会 1 回 地区別カリキュラム開発会議 2 回、研修会 1 回
	【委員属性】 県教育委員会 5 名、県知事部局関係課 4 名、養成大学研究者 13 名、研究団体代表者 4 名、公立小学校長 4 名、公立義務教育学校長 1 名、公立幼稚園長 2 名、公立幼保連携型認定こども園長 1 名、公立保育所長 3 名、公立幼稚園・保育所併設園（幼児園）長 1 名、私立幼稚園長 2 名、私立保育所型認定こども園長 1 名、私立保育所長 1 名、指定市町教育委員会 6 名、指定市町福祉部局関係課 6 名、指定市町所管教育事務所 5 名	

架け橋期のコーディネーター等	【配置人数】 0 名	架け橋期のカリキュラム	【開発主体】 A 北方町内全義務教育学校、幼児教育施設（学園構想） B 神戸町立南平野小学校区 C 可児市立東明小学校区 D 土岐市立泉西小学校区 E 飛騨市立古川西小学校区
----------------	----------------------	-------------	---

カリキュラム開発会議（概要）

1 これまでの経緯

- 平成30年3月に「育ちや学びがにつながる・深まる岐阜県版接続期カリキュラム」を作成し、各園・学校におけるカリキュラムの整備を進めてきた。
- 令和4年3月に「岐阜県幼児教育アクションプラン」を改訂し、基本方針を「『つなぐ・高める・支える』幼児教育の推進」とした。
- アクションプランに示した施策を具現するため、組織を整え、令和4年度より、文部科学省の「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」を受託している。

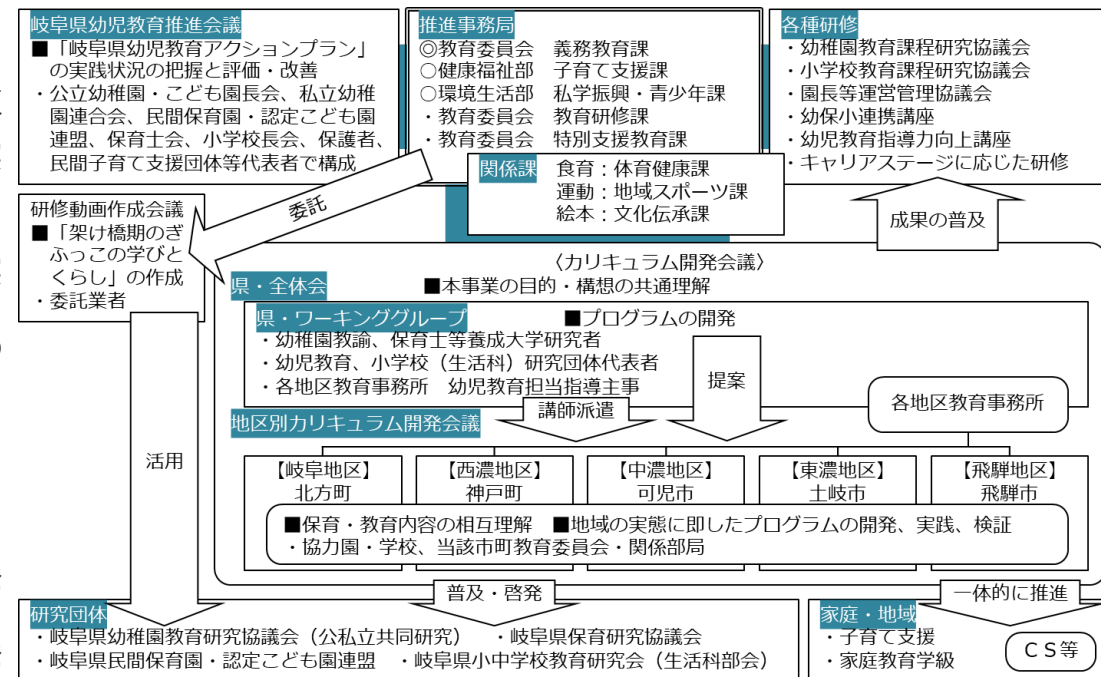
〈岐阜県調査研究課題〉 幼保小の連携・協働による「つなぐ・高める・支える」架け橋プログラムの開発・実践

2 調査研究体制の特色

- 教育委員会と知事部局で推進事務局を構成し、連携して本事業を推進する。
- 県内の幼稚園教諭、保育士等養成大学から13人の研究者を招聘し、県カリキュラム開発会議ワーキンググループ（WG）を構成し、プログラムの開発を行う。
- 県内5市町において、1小学校と当該小学校に入学する子供が概ね通っている幼児教育施設を、施設類型、公私立を問わず協力園・学校として指定し、当該市町教育委員会等関係部局の指導のもと、接続期カリキュラムの開発・実践、検証等を行う。（地区別カリキュラム開発会議）
- 県カリキュラム開発会議WGメンバー等を、地区別カリキュラム開発会議に派遣し、地域の実態に即した研修を実施する。
- 各種研修の充実、研究団体との連携により、研究成果の普及・啓発を図る。

3 架け橋プログラムの内容

- 組織体制・会議設置モデルの開発
- 接続期カリキュラムの開発
- 保育・教育内容の相互理解を図る研修プログラムの開発
- 子供同士の自発的な交流を位置付けた指導計画の開発
- 認識と取組の社会的共有を目指す発信プログラムの開発
- 上記プログラムについて、各幼児教育施設・学校の実践を検証し、改善につなげる。



【岐阜県「幼保小の架け橋プログラム」組織図】

カリキュラム開発会議（方針）

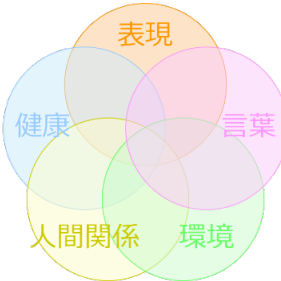
1 カリキュラムの方針

- 本事業においては、「岐阜県版接続期カリキュラム」を作成し、示すのではなく、各地区（園・学校）の実態や「共に育みたい幼児・児童像」に即した、独自性のある「～市町村版（～園・～学校版）接続期カリキュラム」の開発を推進する。
- 県カリキュラム開発会議においては、各市町村（園・学校）が、接続期カリキュラムを開発し、見直すに当たり、「目的と手立てが混在していないか」や「必要事項を網羅しているか」、「幼児教育の特性が担保されているか」等を確認したり、幼稚園教育要領等解説の関係箇所に戻り立ち返ったりすることができる「接続期カリキュラム開発サポートシート」を作成する。
- 本趣旨と方向性を共有した上で、県カリキュラム開発会議WGメンバーや教育事務所指導主事を地区別カリキュラム開発会議に派遣し、指導・助言、伴走支援を行う。

2 接続期カリキュラム開発サポートシート ※（別添）教職員向け研修資料参照

- 本シートは、5領域+特別な支援の6枚から成り、1枚1枚は以下のような構成になっている。

資質・能力の3つの柱、5領域、10の姿の関係性を図式化して明らかにすることで、遊びや生活を通じた総合的な指導の中で一体的に育むことを示した。



5歳児の「共に育みたい幼児・児童像」は、各領域のねらい（育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたもの）の3点に即して設定し、当該領域に関わって資質・能力が育まれた姿を、偏りなく網羅できるようにした。

「指導上の配慮」の最後の項目は、家庭に対して、園・学校が働きかけたり、配慮したりするとよいことを例示した。

接続期カリキュラム開発サポートシート	
健康 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。	
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 学んだことを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力、人間性など 家庭の社会や生活で身に付ける知識及び技能 思考力、判断力、表現力など	
5歳児	1年生
① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう子 ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする子 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する子	⑦ 目標や願いをもって伸び伸びと行動する子 ⑧ 運動遊びに親しみ、休み時間等に他の児童と一緒に楽しく過ごす子 ⑨ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、自他の体を大切にする子 ⑩ 生活の流れを理解し、見通しをもって行動する子
○ 安定した情緒の下で、自分のやりたいことに向かって伸び伸びと取り組むことができるよう、時間・空間・仲間を意識した環境を構成し、一人一人の状況に応じて、一緒に活動したり声をかけたり見守ったりする。①② ○ 戸外の活動を楽しみ、十分に体を動かすことができるよう、アクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)の運動遊び(体を使った遊び)や伝承遊び(押し競べ頭、連勝さんが転んだ等、昔から親しまれてきた遊び)を紹介し実践する。①② ○ 基本的な生活行動(食事、清潔行動、整理整頓等)を身に付け、進んで取り組むことができるよう、生活の流れの中で必要性に気付いたり気持ちよさを感じたりできるように援助し、自立を促す。①③ ○ 安全に気を付けた遊びや行動ができるよう、過保護や過介入に留意しながら、危険やその回避方法についてその場で知らせたり気付かせたりする。③ ○ 上記について情報共有し、家庭でも実行するよう保護者に促す。①②③	○ 一人一人の目標や願いを把握し、状況に応じて、声をかけたり周りの児童に働きかけたりする。⑦⑧ ○ 主体的に遊びを創り出すことができるよう、定期的に集団遊びの機会を設け、ACPを紹介したり誰もが楽しめる作戦を考えるよう促したりする。⑦⑧ ○ 基本的な生活行動が病気や怪我の予防につながることを、学級活動や給食、日常生活の中で機会を捉えて指導し、体を大切にする気持ちを育む。⑦⑨ ○ 時間制に慣れることができるよう、「次は」「いつまで」を丁寧に確認し、板書や掲示で示す。⑦⑩ ○ 上記について情報共有し、家庭でも実行することで習慣化を図るよう保護者に促す。⑦⑧⑩

各市町村（園・学校）が、「共に育みたい幼児・児童像」を明らかにし、資質・能力ベースで分析することができるよう、各領域等と「主に」関わりのある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示した。幼稚園教育要領等解説に例示されている項目は緑色、岐阜県の実態も踏まえ、関わらせて指導することが期待されたり、特に相乗的に育まれていくと考えられる項目は黄緑色で囲んだ。

架け橋期のカリキュラム

指定市町	項目	接続期カリキュラム等の成果 ※（別添）教職員向け研修資料参照
〔岐阜地区〕 北方町	成果物	・ 「たくましい北方の子」を育てる15年間カリキュラムマップ ・ 子どもの「育ちと学び」を円滑に接続するためのカリキュラム（自立心・協同性・思考力の芽生え）
	ポイント	・ 0歳児から9年生までの学びのつながりをまとめ、架け橋期の位置付けを明らかにした。 ・ 体験と表現が往還する活動のイメージが共有できるよう、事例の「学びや遊びのプロセス」を記載した。
	実践例 （校）	・ 「園ではどのようにやっていたの？」と尋ねたり、スモールステップを設定したりして、園で付けた力を発揮しながら生活に適応できるようにした。やるべきことが終わった後の活動を、自分で考えられる子が増えてきた。
〔西濃地区〕 神戸町	成果物	・ 接続期カリキュラム～「運動遊び」を軸として～（健康な心と体）
	ポイント	・ 操作系から集団系へ、変化しながらも続く遊びを矢印で表し、幼児教育の特性を踏まえて記載した。
	実践例 （校）	・ 縦割り班遊びの内容やルールは、子供達同士で、話し合って決めるようにした。学年や個人の得手不得手を配慮したり、より楽しくなるように工夫したりする中で、上級生に対しても安心して相談できる子が増えてきた。
〔中濃地区〕 可児市	成果物	・ 可児市「笑顔の“もと”」接続期カリキュラム（協同性）
	ポイント	・ 各園と小学校の特色を生かし、それぞれが「協同性」を育むことを意識して取り組んでいる活動を記載した。
	実践例 （園）	・ 個々にじっくり味わってきた遊びが、友達との製作遊びへと発展し、たくさんの作品やゲームができてくると、みんなでお店屋さんを開きたいという声が上がったことから、遊び込むことが「協同性」を育むと改めて感じた。
〔東濃地区〕 土岐市	成果物	・ 子どもの育ちと学びをつなぐ「接続期マップ」～「言葉による伝え合い」を重点として～ ・ 子どもの育ちと学びをつなぐ「連携のあしあと」 ・ 開発の手順と解説
	ポイント	・ 授業や日常を通して目指す「第1学年修了時までに育ってほしい姿」記載し、指導の方向性を明らかにした。
	実践例 （園）	・ 伝え合う環境として、「先生」「ペア」「グループ」「全体」を意識して設定するようにした。進んで自分の考えを伝えるだけでなく、友達の考えを聞いて、共感したり提案したりできる子が増えてきた。
〔飛騨地区〕 飛騨市	成果物	・ 飛騨市版アプローチ・スタートカリキュラム（運動能力・仲間と関わる力・あきらめない心）
	ポイント	・ 活動を通して育む「仲間と関わる力」の系統性を記載し、5歳児後期と入学期を同じ段階に位置付けた。
	実践例 （園）	・ 「共に育みたい幼児・児童像」を明らかにしたことで、できるできないだけではない、子供達の内にも育まれている力が見えてきた。鉄棒で技に失敗したり、竹馬で転んだりしても、黙って再挑戦する子が増えたと気付いた。

次年度への展望

1 成果と課題

（1）県カリキュラム開発会議について

- 岐阜県幼児教育アクションプランの基本方針を踏まえ、1年目は〈つなぐ〉（接続期カリキュラムの開発に着手する）、2年目は〈高める〉（教職員向け研修資料・動画を作成する）、3年目は〈支える〉（保護者向け啓発資料・動画を作成する）を重点に取り組んでいく見通しを立て、計画通りに実施している。
- カリキュラム開発の方針を踏まえ、「接続期カリキュラム開発サポートシート」を作成し、教職員向け研修資料（冊子）に掲載するとともに、教職員向け研修動画（DVD）に解説を収録し、配布した。
- 県カリキュラム開発会議WGメンバー等を、地区別カリキュラム開発会議に派遣し、地域の実態に即した研修を実施した。これまでの課題として、連携の内容が、保育参観、授業参観に留まる例が多いことや、学校段階、施設類型、公私立の枠を超えて協議する機会が少ないこと等が挙げられていたが、本研修を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼児・児童の姿について協議し、保育・教育内容の相互理解を図ることができた。
- ▲ 「認識と取組の社会的共有を目指す発信プログラムの開発」に着手できていないため、令和6年度は、保護者向け啓発資料（リーフレット）及び動画（DVD）の作成に取り組む。

（2）地区別カリキュラム開発会議について

- 地域の実態に即した接続期カリキュラムの開発や幼保小の連携を実施した。例えば、学園構想を掲げている地区（園・学校）では、0歳児から9年生までを見通した「15年間カリキュラム」と架け橋期を取り出した接続期カリキュラムの開発に取り組んだ。また、学校と幼児教育施設が隣接している地区（園・学校）では、地の利を生かし、幼児が児童と集団登園・校したり、低学年の運動会の取組に参加したりする等の交流を行った。
- 上記の成果物として、各地区（園・学校）の「共に育みたい幼児・児童像」を明らかにした接続期カリキュラム等を開発し、教職員向け研修資料（冊子）に掲載するとともに、教職員向け研修動画（DVD）に説明や実践の具体を収録し、配布した。
- ▲ 幼保小の連携を図る中でも、幼児教育の特性を担保しなければならないことや、幼児教育は「多様性」に満ちており、画一的なシステムやカリキュラムを作ろうとしてはいけないことに留意する。

2 保護者向け啓発資料（リーフレット）・動画（DVD）の構想（案）

- ・ 架け橋期のキーワードに係る取組について、動画や写真等を通して紹介し、子供の成長と教職員の意図を伝える。

〈キーワード（案）〉

- ・ 遊び →「環境」を含む。
- ・ アプローチカリキュラム →「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を含む。
- ・ スタートカリキュラム →「生活科」を含む。
- ・ 子供同士の自発的な交流
- ・ 幼保小合同研修・会議 →「接続期カリキュラム」を含む。

